



角川文庫

—1970—

現代詩人全集

第十卷

戦後Ⅱ

鮎川信夫解説



角川書店



角川文庫

現代詩人全集 (十)
全十冊



昭和三十八年三月十日
昭和四十二年十一月三十日
初版発行
六版発行

定価は、帯・カバー
に明記してあります。

代表者
著作者
秋谷 豊
あきや ゆたか

発行者
角川源義

印刷者
中内佐光
東京都千代田区飯田橋一ノ二

発行所

東京都千代田区富士見二ノ十三
振替東京一九五二〇八

株式会社
角川書店
かどかわしよてん
電話東京(265)三二二(大代表)

落丁・乱丁本はお取替えいたします

Printed in Japan

暁印刷・本間製本

現代詩人全集

第十卷

戦後Ⅱ

鮎川信夫解説

目次

秋谷 豊

詩

読 書

蟬

雪と岩と太陽

藤富保男

楽 屋

テ！マ

どうにかしてる何か

逃

まるで

元 元 六 六

三 三 元 七 七

登 攀 流 血 望 楼 雨 季

適 当 推 理 ふ と ● ○ ●

六 二 三 三 三 七 三 三 三 三 三

長谷川龍生

恐山

けむりの意識

キノコのアイディア

堀川正美

太平洋

黄金時代

書物の教訓

アメリカの男たちに

茨木のり子

魂

対話

根府川の海

生きているもの・死んでいるもの

石川逸子

狼・私たち

戯れにわれ小舎をのぞきしかど……

三七

四七

四〇

四六

四八

五〇

五三

五四

五五

五六

五九

六〇

七〇

見捨てられた子供たち

六

城 侑

怨恨

八〇

見て知っていた

八二

ご馳走

八三

山の中の結論

八三

金井 直

変り者
椅子の形
旅 人
音

八〇 八四 八五 八六 八七 八九

物 語

八九

ゆきずりの女

九〇

あじさい

九〇

別 離

九二

夜の沼

九二

輪 廻

九三

橋

九三

生に就いて

九四

心 臓

九五

河のふちで

九五

カンナ

九七

散る日

九七

Largo

九八

薔 薇

九八

川崎 洋

はくちょう

風にしたためて

往復

一〇〇
一〇二
一〇三ゆうやけの歌
早くしないと
木一〇〇
一〇三
一〇四
一〇五

木島 始

恋歌

I 稚さ

II 休息

III 檻 穿

IV 蚕 食

V 短慮

二〇〇
二〇二

二〇三

二〇四

二〇五

二〇六

VI 根 柢

VII 暗 礁

VIII 失 態

IX 岐 路

X 踏 台

零の復讐にたちむかうには？

二〇三
二〇四
二〇五
二〇六

二〇七

二〇八

二〇九

二一〇

清岡卓行

愉快的シネカメラ

子守唄のための太鼓

結婚の盃

オーボエを吹く男

風景

冬の朝

二一一
二一二
二一三二一四
二一五二一六
二一七

デパートの中の散歩
思い出してはいけない

一三六
一三八

静かな日曜の午後

一三九

黒田喜夫

一三三

鳥目の男

一三三

除名

一三八

セレナーデ

一三三

隠された村へ

一三七

末裔の人々

一三四

牟礼慶子

一四〇

ポプラ

一四〇

不在の論理

一四四

巨人

一四二

落日

一四五

来歴

一四二

庭の中

一四六

問わねばならない

一四三

すばらしい海

一四七

中江俊夫

一四九

なくす

一四九

卵

一五二

昆虫

一四九

貧血症

一五三

古い門の精

一五〇

目標

一五三

言葉

沈黙

一五七

そのこと

対岸について

一五八

臉の裏では

鼠のうた

一五九

ふくろう

おやすみ

一六〇

二月

一七〇

中村 稔

一六一

ある潟の日没

声

一六二

よこたわる男

五月

一六三

時は尽きず……

六月

一六四

海 その一

夏

一六五

夜

冬

一六六

海 その六

風

一六七

海

街

一六八

夜

樹

一六九

大岡 信

一七〇

詩人の死

一七一

さわる

一七二

声	一八〇	Lost	一八四
死に関する詩的デッサンの試み	一八三	心にひとかけらの感傷も	一八五
澤村光博			一八七
犠牲者たち	一八七	自殺者のうた	一九二
愛は 定期的な	一八八	夜の稲妻	一九三
アフリカの「時」	一八八	ささやかな露台で	一九四
牛	一九〇	スエズの東	一九五
水のなかの家	一九二		
関根 弘			一九七
沙漠の木	一九七	銀の針金	二〇二
水族館	一九七	過失の谷	二〇三
霧	一九八	変なやつ	二〇四
靴の歌	一九九	ウサギの罠	二〇五
死んだネズミ	二〇〇	イカとハンカチ	二〇五
夜の文明	二〇〇		

嶋岡 晨

二〇七

新観察

二〇七

胎動

二一〇

かくれんぼ

二〇八

生まれてくるおれの子供よ

二一三

飛翔

二〇八

愛児

二一五

ぼくたちは幽霊だ

二〇九

新藤千恵

二二七

転身譜

二二七

1 稲妻

二二七

期待

二三一

2 メタモルフ オオゼ

二二九

夜の森にて

二三三

生野幸吉

二三六

ひかりというひかりが……

二三六

大風の日 3

二三〇

傷 3

二三七

声 2

二三一

雪の素描

二三六

おおつごもり

二三三

大風の日 1

二三九

菅原克己

娘

二二七

小さい歯

二四二

帰宅

二二六

ブラザー軒

二四二

この明るさのなかで

二二六

光禅寺通りのめくらの叔母さん

二四三

ぼくらにある住家

二二五

野

二四三

やさしい友だち

二四〇

階段の上の部屋で

二四四

鈴木喜緑

二二七

蠟のうた

二二七

君は

二五三

モジリアニの女のまえで

二二七

鶴

二五三

鉄橋

二二六

美の党員

二五四

野ニ立ッテ

二二九

少年の思想

二五五

カーチャの湖

二五〇

花

二五六

許して

二五二

高野喜久雄

二五八

耳を

二五八

いのち

二五八

鏡 崖 父 独 鳥 空
は 楽

滝口雅子

蒼い馬
窓

女の半身像

死と愛

男について

現代の洞窟

谷川 雁

帰館

おれは砲兵

二五 二五 二五 二五 二五 二五

言葉
水たまり
あなたに
あなたに
あなたに
母親と娘

鋼鉄の足

食事

革命とは

母について

屠殺場

未来のまなざし

二六 二六 二六 二六 二六 二六

成形

水車番の日記

二六 二六

二六 二六

伝達

二八

隊へ

二八四

商人

二八三

本郷

二八五

革命

二八三

ゲッセマネの夜

二八六

東京へゆくな

二八三

ゆうひ

二八七

谷川俊太郎

二八八

かなしみ

二八

地球へのピクニック

二九三

二十億光年の孤独

二八

室について

二九四

ネロ

二九

窓

二九五

41

二九

男の子のマーチ

二九六

62

二九

家族の肖像

二九六

愛

二九

子供と線路

二九八

夕暮

二九

寺山修司

二九

わたしのイソップ

二九

わたしに似た人

三〇四

残酷な夏

三〇

生れた年

三〇六

あなたの思い出

三〇

富岡多恵子

三〇九

身上話

三〇九

ひとつの論証

三二二

カリスマのカシの木

三一

長篇詩物語の明くる日からの一部

三五

山本太郎

三九

牛

三九

旅

三五

アフリカ

三三

讃美歌

三七

安水稔和

三二

愛の正体

三二

鳥の話

三六

離れたものとの結びつき

三三

千枚田

三七

ぼくの道は多くない

三三

とおい歌

三九

今撃とうとする鳥に

三四

吉野 弘

三四一

さよなら

三四

記録

三四四

謀 叛

三四三

ハンタア

三四四

	I was born	三五一		
	父	三四七		
	初めての児に	三四七		
	吉岡 実			
	静 物	三五二		
	静 物	三五三		
	犬の肖像	三五三		
	過 去	三五四		
	告 白	三五五		
解 説				
	奈々子に	三四八		
	フランス・ジャム先生	三四九		
	単 純	三五五		
	聖家族	三五六		
	喪 服	三五七		
	僧 侶	三五八		
	鮎川 信夫	三六三		